

北海道自然保護連合通信

# 北の自然

第  
34  
号

1988年5月28日



コッタロ湿原 (標茶)

写真: 井山浩一



# 北海道自然保護連合の再建について

## 再建委員会

これまで自然保護のために尽くしてこられた連合の瀬川潔代表、寺島一男副代表、田中明子事務局長が会計処理の問題で四月十七日辞任されたことは新聞、テレビで多くの団体、賛助会員の皆さまがご承知のことと思います。

このあと連合は再建委員会を発足させ、自然保護の事業を継続させたいと願う者となるべく仕事を進めておりますが、十七日の代表者会議で出された会計問題の解明結果を中心に事態の概要を報告しておくべきだと考えます。

### 問題のはじまり

会計の問題が表面化したのは四月二、三日、札幌で開かれた定例の代表者会議でした。その際、事務局は一九八七年度の一般会計決算で一六二万五三三〇円、知床募金会計決算で八四万八九六八がそれぞれ赤字となっていることを報告しました。これらの赤字が生じた原因をめぐって出席者から多くの疑問が出され、緊急監査請求の動議が提出、可決されました。

この結果、会員・団体の中から鈴木博、丹野美智子、前田重和、の三人を監査委員に選び、また各団体から四人の常務委員、つまり中野徹三、(北海道自然保護協会)、武田頭、(北海道

の自然を考える会)、平井百合子、(キッネハウス)を選んで、問題を解明し、次回の代表者会議に報告と問題解決の提案を行うよう討議されました。

### 監査の結果

監査は四月三日から、八日間にわたり精力的に行われました。十七日に開かれた代表者会議に「今回の問題についての委員会の見解」として報告された結果は次の通りです。

- ① 立木買い取り募金に四一人の方々から寄せられた応募総額は七六六〇七八七円。このうちから一般会計の赤字七五五四八三円を補てんした事実があった。
- ② 同時に、立木買い取り募金を知床募金の赤字一六九万八七一四円の補てんに使用した。このほか、知床募金会計の中から正当な手続きをへず人件費二人分をふくむ支出がなされていた。
- ③ これ以外に、田中事務局長が一九八七年度中に立木買い取り募金から借用した金額が二六四万二二五二円あった。この「個人的借金」は田中氏の積明によれば、昨年四月十四日の「知床国有林伐採強行前後の阻止行動の

ることを正式に決定。募金については返済希望のある人には返済、事前に知床募金に寄付する人の分はそのようにすることを決めました。

連合事務局によると四月二十八日現在その立木買い取り運動の応募者五〇九人のうち中止の場合の返済希望者は百二十四人、二二万八三〇〇円で、この分についてはくわしい経過とおわびの手紙とともにすでに返済が終了しました。

### 再建委員会

次の大きな問題は連合のこれからです。これについては四月十七日の代表者会議で、会計問題の処理に当たって監査委員と常任委員の七人のほか、紺谷友昭(北海道自然保護協会)・井山浩一(事務局)を加えて再建委員会を作ることが提案されました。そして次回の代表者会議を五月二十八、九日とし、これまでに再建案を作って提案することになりました。この間の連合の代表者としては諸問題のまとめ役として尽力していた中野氏を代表代行とするこ

とになりました。

第一回の再建委員会は四月二十日開かれ、立木買い取り募金の返済希望者については早急に返済すること(上述)、会計については前田氏を中心になって処理に当たること、紺谷を中心に会報を発行して経過報告などをする事、五月八日の室蘭岳を守る会主催のシンポジウムに連合として後援すること、鈴木、平井氏が中心になって規約の改正に当たることなどを決めま

した。これらの仕事はいずれも着手され、五月十一日には二回目の委員会を開いて事務をさらに進めることにしています。

### 報告の終わり

連合は一九七五年、道内の自然保護団体の力を結束して北海道の自然を守るべく発足。また一九八七年度からは団体ばかりでなく個人会費をふくめた組織として再発足しました。

田中氏は発足当初から事務局長として日高横断道路建設、知床国有林伐採などの阻止活動に大きな力を発揮してきました。しかし、この反面、監査委員会も指摘しているように、連合の活動があまりに田中氏個人の力にたよりすぎ、加盟各団体、個人会員の集団運営体制がとられていなかったことに今回の問題の一つの大きな原因があったといわなければなりません。

これからは北海道の自然を守り、自然と調和した社会をきづいていくためには各地の市民が力を合わせて、たがいに知恵を出しあい、助け合っていくことが絶対に必要であります。そのためには、今回の問題を機会に各団体ももっと責任をもち、個人会員の力もとり入れて連合を発展させていかなければなりません。連合が発展することが地域の団体の発展につながるようにならなければなりません。われわれ、そのために各団体、個人が力を貸すことを呼びかけます。

(紺谷友昭)

ための旅費・宿泊費ほか知床問題で東京出張等の費用で、帳簿に記載されなかったものが大部分だということである。監査委員会によると田中氏は、この額にはほぼ相当する二、五五、〇七三円の借用証を四月一日付で瀬川代表に提出し、その分は四月八日に連合に弁済されました。

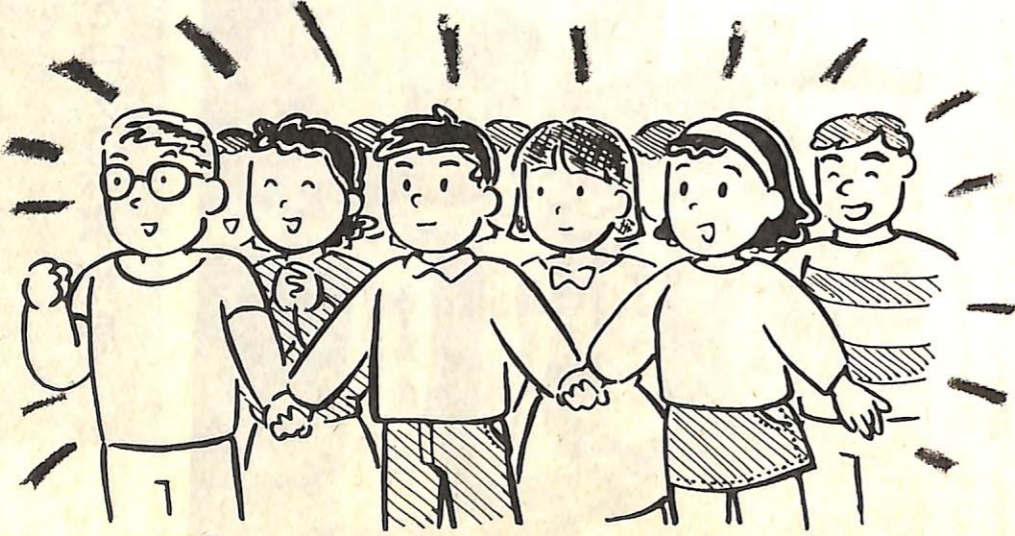
### 新聞の報道

三日の代表者会議で、この問題の処理については監査結果がまとまるまで公表しないことが申し合われました。しかし十日になって新聞社数社に「田中事務局長が会計の問題で辞任した」むねの匿名の電話がかかけられ、各社の記者が田中氏の住居を訪問して取材。翌十一日の朝刊には読売、道新、夕刊には朝日が報道。特に読売は全国版にのせたため、この問題が全国に知られることになりました。

### 三役の辞任

四月十七日に開かれた代表者会議では以上の監査結果が報告されました。このあと文書または口頭で辞意を伝えていた瀬川代表、寺島副代表、田中事務局長の扱いを討議。これは出席していた十一団体の代表十一人の票決で決めることにし、辞任に賛成九、保留二で三人の辞任を了承しました。このあと三人はそれぞれおわびのあいさつを行い、これからは自然保護のため役立っていきたいとのべました。

このあと立木買い取り運動については中止す



イラスト：中由美子



# シンポジウム『開発と自然保護』

室蘭岳の自然を考える

## 室蘭岳の自然を守る会事務局

五月八日(日)午後一時から四時  
間半にわたり室蘭市障害者福祉総合  
センターで北海道自然保護連合、(社  
)北海道自然保護協会の後援により  
室蘭岳の自然を守る会主催のシンポ  
ジウムが約百名の市民が参加する中  
で開催されました。

室蘭岳スキー場建設計画について  
は、既に「北の自然・第三号」で  
報告させていただきましたが、その  
後同スキー場は市民の根強い反対の  
声にも拘わらず昨年十二月に一部オ  
ープンされ、本年中に国有林(水源  
かん養保安林)を伐採した拡張工事  
が予定されています。そして現在で  
も建設促進派の異常な雰囲気をもっ  
た拡張工事促進の署名活動が大政翼  
賛会的に行われています。こうした  
中で私達は、建設計画が単に室蘭の  
活性化の問題ではなく、北海道全体  
を標的としたリゾート計画(自然破  
壊の一環であること。地球規模で進  
行する緑の減少は先づ室蘭の緑から

防がなければならないことを強く市  
民に訴えることの必要性を痛感し、  
シンポジウムを企画しました。

シンポジウムは、総合司会者であ  
る連合代表代行・協会常務理事の中  
野徹三さんの「室蘭岳の自然を守る  
運動を室蘭を市民のまちにして行く  
転機に」との挨拶によって始まり、  
講演と討論にはいりました。

まず札幌の自然を守る会代表委員  
・協会常務理事の紺谷友昭さんは、  
「市民にとってスキー場は必要か」  
と題する講演で、スキー場建設が必  
ずしも開発側が宣伝するほどの雇用  
効果をあげていないこと、スキーを  
楽しむのは個人の自由であるがスキ  
ー場建設による自然破壊は人間の生  
存にかかわる重要な問題であること  
を指摘し、最近のレジャー産業が自  
然を利用して遊ぶ人間ではなく金を  
使わなければ遊べない人間を創り出  
していることなど多くの資料をあげ  
てスキー場建設の問題点を市民に訴



えました。

ついで大雪と石狩の自然を守る会  
・協会常務理事の寺島一男さんは、  
「大雪山系の観光開発から考える」

と題する講演を行ない、リゾート開  
発は良好な自然を大規模に狙うもの  
であって自然環境保全策がないう  
え、地元自治体は基盤整備などに莫



写真右手が第1期着工部分(民有地)。昨年12月オープン。中央、白鳥ヒュッ  
テより上部の国有林(水源かん養保安林)が第2期工事予定地。

大な支出を余儀なくされるなど指  
摘し、自分たちの地域の個性ある自  
然を大切にしておくには、住民主  
導の開発協定を結び十分な影響調査  
をすること、本当地域振興に役立  
つのかを見極める必要があることな  
どを訴えました。

その後休憩をはさんで北海道の自  
然を考える会事務局長の前田重和さ  
ん、室蘭岳の自然を守る会代表の二  
井田高敏よりそれぞれの運動状況が  
報告され、これを基に討論に移りま  
した。

討論は、室蘭岳の自然を守る会の  
シンポジウム企画担当の菊池広行が  
室蘭岳スキー場建設の問題点を指摘  
しながら討論する形式で行われ、建  
設促進・反対それぞれの立場から活  
発な意見がだされました。建設促進  
の立場からは、「失業者があふれて  
いる室蘭では雇用創設への期待が大  
きい、冬季レクリエーションの場が  
確保される」などの意見もだされま  
したが、「水害や水の汚染の危険性  
が心配される、環境アセスメントの  
全文が公開されないのは不可解であ  
る、雇用増大につながるというの  
はまやかした、近くにスキー場ができ  
て便利というが自然を破壊してまで  
便利さを求めるべきか」などの意見

があい次ぎました。

促進を求める人達の中には、賛成  
者の声に耳を傾けるべきであると叫  
びながら、反対する人の声を聞く耳  
を持たないとして興奮した面持ちで  
退場する人もいましたが、殆ど  
参加者は、子供たちの為にもこれ以  
上室蘭岳の自然を破壊すべきではな  
いという「守る会」の主張に賛同し、  
開発よりも自然保護を優先すべきで  
あるとのアピールを採択してシンポ  
ジウムを閉会しました。

当日の予定時間を大幅に延長する  
ほど熱心な意見交換が行われたシン  
ポジウムは、室蘭市民は勿論のこと  
これからの自然保護運動にとって大  
きな力を与える原動力になったもの  
と思います。そして意見の相違があ  
っても、それぞれの立場を十分認識  
し時間をかけた意見の交換、自然保  
護の大切さを更に一層強く訴えるこ  
との必要性を痛感させてくれました。

最後に、シンポジウムを盛会に導  
びてくれた北海道自然保護連合、  
(社)北海道自然保護協会はじめ各  
地から忙しい時間をさいて参加して  
くれた皆さんに心から感謝申し上げます。



# 知床現地から



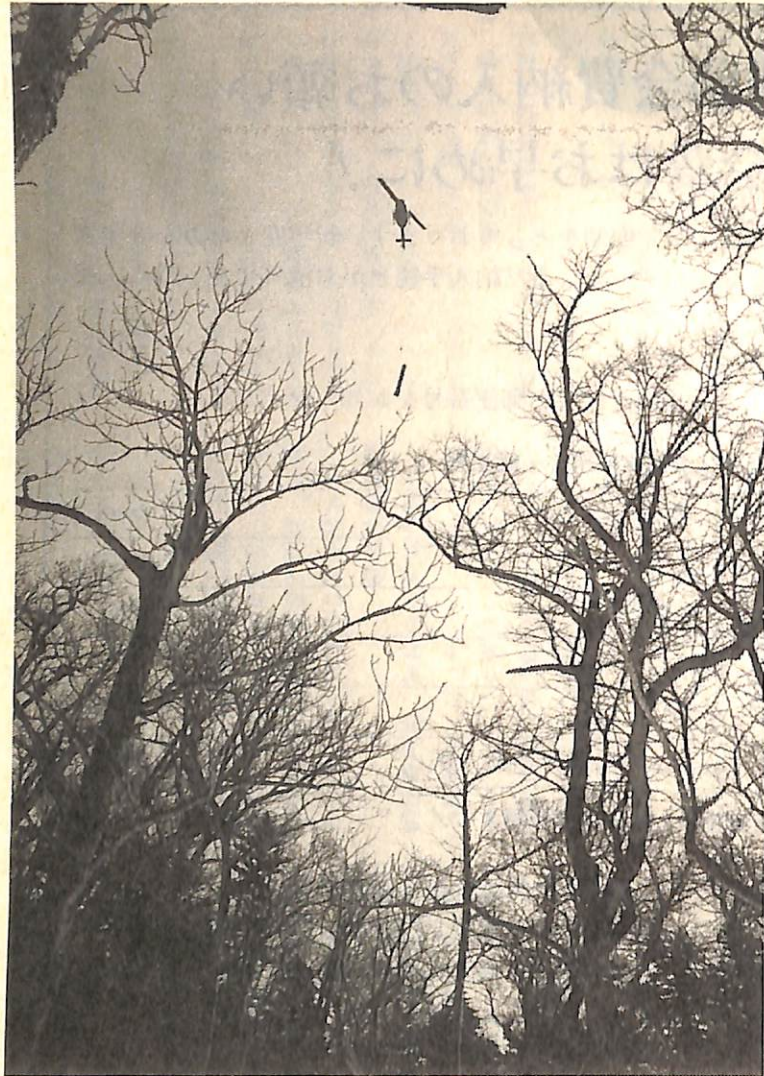
知床自然保護協会会長 石井 政之

「伐採を阻止する気迫が無ければ抗議のパフォーマンス、チブコではない」と胸の中で叫びながらもしがみつかなかったミズナラの大きな木、凍りつくような冷たい足を靴を、ひととき忘れさせてくれた暖い木肌の大きな木、幼い子供の文字で「切らないで」と訴える花模様ハンカチーフが巻かれた大きな木、森への想いが連綿と続く十五枚のハンカチーフで抱かれたミズナラの大きな木、北見営林支局の「択伐、抜き切り」の嘘を暴くように、伐採木一本の巻き添えになった支障木二十三本、足場固めのため切られ、森の「若がえり」どころではなかったミズナラの若い木、金にならない木は放置され、森を「活性化」はすなのの下敷きとなった多くのトドマツ……チェンソーの音が今も耳に残る。御用学者らの八百長鳥獣調査は続く、一九八七年四月十四日の知床国立公園森林略奪を忘れないで！

一九八六年―八七年にかけて、小学三年生の少女を連れて激しい伐採反対行動に参加された札幌市内の一女性の手記の一部です。何とすさまじい気迫でしょう。鬼気迫るものがあります。このような人達を先頭に日本全国からかけつけ現地で仙人のような生活をしながら反対行動を支えてくれた多くの方々、激励の手紙と共に支援カンパを送ってくれた小、中、高校生から主婦、企業人、伐採賛成町長が「百平方メートル運動」影響はない、伐採問題が起って以来異状な程参加者がふえた」といった程、反対の願いを行動に表現した参加者、北海道自然保護連合が捨身

い自然の法則と教訓は、まだ無数に残っておりません。それは科学の進歩と共に尽きることがないことでしょう。人類が、日光、水、大気に始まる生態系の破壊に手をつけ、又其の枝量をもつようになつた以上、自然保護は人類の生存の基盤を保護する生態系保全の視点を曇らせてはならないと思います。未来社会を考へる時、人類の将来に暗いものがあるとすれば、その主原因は人間が自然を破壊し、しかもその破壊が全く無計画に行われたことが原因しているのに違

いありません。二月二十四日に、農水省で林野庁長官の私的諮問機関である「林業と自然保護に関する検討委員会」が開かれました。これは知床国有林等自然保護と、国有林野事業をめぐる紛争が起きている地域の対策について意見交換をする七名の委員会です。林野庁に慎重な対応を求め意見をとりまとめますが結論はでておりません。知床問題はまだまだ続きそうです。伐採予定地と原則禁伐の、「原生自然環境保全地域」ま



1987年4月17日・知床

の戦術とも想える「立木買取運動」に参加した多くの方々等、激しく、そして苦しかった四・一四を目前にして想いは尽きません。切られた五三三本と、巻き添えになった二千百本、合わせて二千六百本、一ha当り十一本です。満身創痍とも言へる深い痛手を受けた知床国立公園A地区は、深い雪におおわれ、創跡を癒しておりません。自然はそれを思いやってか今年には流水もおそくそして少く、気温も近年になく温暖でした。春になったら、知床の樹や、鳥や獣達が美しく輝いて美しく鳴き、知床の自然を守ってくれた皆さん始め、多くの学者、団体の方々に一杯感謝の念を表現することでしょう。言葉で表現できない彼等によって地元知床自然保護協会として、心から厚くお礼申し上げます。今年の知床の緑と輝きを紅葉は一段と濃いものになるでしょう。それは知床の森が感謝の念を表していると思つて下さい。

三月一日付で斜里営林署は廃止になりました。ポット苗八百本を人目につく所の伐根百本位に植え、枝條の整理も人目につく所の一部位で終え、今後の保育管理はどうなるのでしょうか。「略奪」「嘘吐き」「裏切り」「ベテン」何ともいえない腹立を感じます。

知床を始めとして全国の原生林は、林業にのみ関連しているものではありません。侵蝕防止、水源涵養、水質保全、土壌保全、野生鳥獣の保護や制御、其の外いろいろな分野の研究者は、常に其のモデルを原生林の中に見出すことでしょう。天然林の中から探し出さなければなら

たは「特別保護地区」への格上げについては国有林の管理者である林野庁が、伐採できなくなるの理由に同意しない実情です。今回の知床問題を通じて全国の多くの方々から、知床の「保護」「管理」「利用」の原点や学術的価値が問われました。知床が国立公園となった具体方針を新めて見直し再確認をしなければなりません。年間三十万の観光客始め、三万人の百平米運動参加者、知床に想いをよせておられる全国の多くの方々とのかわり合いは、斜里町の大切な財産です。この多くの方々に対して最大なお返しは、二千万年の歳月をかけてできたといわれる知床の原生自然を厳正に保護し、二十一世紀に引きつぐことと思っております。今回の知床問題を通じて、原生的自然は国民にとつて多様な多様な価値を有していることがわかりました。異様な経済偏重をした社会状況の中で、今最も求められている暖い人間愛を形成してゆくためにも各地の原生的自然は残してゆくべきです。そして多様な多様な自然観が、一般の国民の体験では容易に見えない生態学を始めとする自然認識に結びつく形で、この保存された原生的自然が、自然観察の場、自然教育の場として利用されてゆくべきと思っております。又知床を通じて私達は全国の皆さん方と共に多様な学習をしました。行動もしました。今全国各地でこの種の問題が起っております。この学習と経験をもって自然保護、環境保全運動の輪を広げて頂くことを心から祈念しております。



# 新刊紹介

「山登りは道草くいながら」

本多 勝一 著

人一倍行動的なジャーナリストとして知られる本多勝一氏によるエッセイ集。目次を開くと、なじみのない山々、聞いたことのない山々が並んでいるが、ありきたりの名山とは異なった面白さがそこにはある。「登ることが目的ではなく、道草を食いつながら登る山登りが楽しい」という。途中で見かける草木花との出会いの楽しさには、誰もが同感してしまはず。本文中に数葉挿入されている著者自筆の美しい絵にも心ひかれる。どこか手作りのよさが漂う好著。大推薦します。

(実業之日本社 一八〇〇円)

「北海道自然百選」

朝日新聞北海道支社報道部 編

昨年出た本であるが、ぜひこの場で紹介しておきたい。北海道の各地から一〇〇ヶ所を選び、あふれる自然の魅力を解説した北海道ガイド。とりあげた各地には見開きのカラー写真が配され、解説ページにはやさしい地図とあしまで載っているという心配り。これから北海道の自然めぐりをしたい方には格好のガイド。ページを繰ることに行ってみたくなる衝動にかられてしまう。本州の方はもちろん、北海道に住む方にもおすすすめ。

(朝日新聞社 一八〇〇円)

## '88年度賛助会費納入のお願い 継続会費はお早めに!

賛助会員は、4月から翌年3月までの年度制をとっております。新年度となり、今年度分の賛助会費納入の手続きをしていただくため、まだ納入手続きがお済みでない方に、郵便振込み用紙を同封いたしました。

なお、入れ違いの節は、ご容赦ください。

また、住所変更などございましたら新旧両住所と郵便番号をお知らせください。

### 北海道自然保護連合一販売物

報告書類	日高中央横断道路地質調査・セミナー報告書1984	500円
	知床横断道路事後調査報告書(第2回)1983	300円
	知床国立公園国有林伐採跡地における調査報告書(北海道大学自然保護研究会編)S62.8	1,000円
	坂本直行ループタイ(エーデルワイス)黄緑・緑・桃色の3種	8,000円
グッズ	パッチ(しまふくろう・ミズナラのデザイン2種)	1コ 300円 2コ 500円
	ステッカーハガキ(シールとしても、絵ハガキとしても使えます)	1枚 100円 3枚 200円

販売物申し込みは事務局まで!

上記問い合わせ先 北海道自然保護連合事務局  
〒065 札幌市東区北23条東1丁目 堀江ビル2F  
自然保護センター内  
TEL 011-742-3161  
郵便振替 小樽1-4071

## 切り抜き

傷病の野生動物救え—獣医ら集い  
救護法探る

けがや病気で自然界からはじき出された野生動物の救護活動を続けてきた人たちが「野生動物の傷病と救護」をテーマにこのほど、釧路市内で悩みや対策を話し合った。集いで、傷ついたり鳥などを再び自然に返すことの難しさが報告され、野生動物の生命を守るためのシステムづくりについて、秋までに具体案をまとめることになった。

(4・6 朝日)

「大雪山国立公園内のスキー場計画」美瑛町が白紙撤回

上川管内美瑛町が進めているリゾート開発「ジャパンヘルシーゾーン計画」の中で、自然保護団体「大雪と石狩の自然を守る会」の反対を受けて凍結されていた美瑛富士スキー場建設計画について、美瑛町は六日まで建設計画を白紙撤回することを決め、守る会に文書で伝えた。

(4・7 北海道)

「室蘭岳スキー場建設」推進の消費者協会に自然保護派が質問状

室蘭岳でのスキー場建設に反対し

ている「室蘭岳の自然を守る会」が七日、建設促進を求めて署名活動を展開している室蘭消費者協会に「消費者運動は緑の保護をどう思うのか」と公開質問状を渡した。

(4・8 北海道)

スノーモビルわがもの顔—大雪山国立公園

まだ深い雪に覆われ、高山植物や野生動物が数多く生息する大雪山国立公園内で、このところスノーモビルの無法乗り入れが目立っている。車両進入禁止の特別保護地区を乗り回しており、高山でのレジャーを楽しんでいる、という。公園関係者や自然愛好家らは「繁殖のための微妙な時期にある春先の動物に悪影響が出るのでは」と心配している。

(4・14 北海道)

「今後の伐採中止せよ」知床自然保護協会が要請

知床国有林の伐採から九一年の十四日、知床自然保護協会の石井政之会長が、知床森林センターで、今後の伐採計画の中止を求める要請文を小合信也所長に手渡した。

要請文は、「昨年の伐採強行は、地元住民はもとより、国民の強い批判を浴びた。林野庁は知床国有林の価値を十分認識し、国有林伐採計画

を即時中止するよう要望する」という内容。

(4・15 北海道)

千歳川放水路反対チラシで市民にPR

「千歳川放水路を考える会」は十六日、JR苫小牧駅前で、放水路建設で予想される自然破壊と影響などをまとめたチラシを市民に配布して反対への理解を求めた。

(4・17 朝日)

ボランティアのレンジャー募る—「自然トピアしれとこ」で斜里町

「奥知床の自然保護の決め手にマイカー規制を」と、網走支庁斜里町が進めている知床国立公園、ホロベツ地区園地整備事業(自然トピアしれとこ)計画に伴い、町と知床動物研究グループがボランティアのレンジャーを公募しており、五月二日から五日まで、養成のための講習会を開く。

(4・19 朝日)

「知床伐採」盛り込まず—北見営林支局今年度計画

知床国立公園内の国有林伐採問題で、北見営林支局は今年度の当初事業計画に「知床伐採を盛り込まないことを二十六日、明らかにした。林野庁長官の私的諮問機関、林業と自然保護に関する検討委員会から伐採

問題について今年二月、同庁に「慎重な対応を」という意見が出されたことを受け当初計画に乗せるのを見合わせた、と説明している。

(4・27 朝日)

千歳川放水路中止求め札幌の主婦ら創作—11月に公演

千歳川放水路計画の中止を自然保護の立場から訴えるオペレッタ(歌劇)が札幌市内の主婦らの手で創作され、その曲の一部が八日、仲間グループに披露された。オペレッタはウトナイ湖周辺の自然のすばらしさを細かく歌い上げていく構成で、十一月初めには出演者百人規模の演奏会開く予定だ。

(5・9 北海道)

士幌高原道路の未通区間で調査—道の検討会議

工事再開が計画されている十勝管内士幌、鹿追両町を結ぶ道道士幌、然別湖線(士幌高原道路)の未開通区間で十三日、自然環境調査報告書を審査している道の検討会議が現地調査を実施した。道は検討会議に六月中にも結論を出してもらい、ゴイスインが出れば年内に工事再開へ向けた調査に着手する方針。

(5・14 北海道)







# 活動の記録・事務局

(1月1日～5月27日)

- 1月28日 ○通信87-5 発送
- 2月1日 ○午来斜里町長、石井知床自然保護協会会長と面談(瀬川)
- 2月3日 ○野州十勝自然保護協会会長と面談(帯広にて瀬川)
- 2月14日 ○室蘭岳の自然を守る会と打ち合せ
- 2月19日 ○北の自然No.33納品・発送
- 2月20日 ○会報編集会議
- 3月13日 ○室蘭岳スキー場検討ツアー(室蘭にて)
- 3月15日 ○通信87-6 送付
- 3月24日 ○室蘭岳の自然を守る会来札・打合せ
- 4月1日 ○代表者会議資料作成
- 4月2～3日 ○代表者会議(札幌・北海道クリスチャンセンターにて)
- 4月3日 ○第1回緊急会計監査
- 4月4日 ○第2回緊急会計監査
- 4月5日 ○第3回緊急会計監査・第1回常務委員会
- 4月6日 ○第4回緊急会計監査・第2回常務委員会
- 4月8日 ○第5回緊急会計監査・第3回常務委員会
- 4月10日 ○第6回緊急会計監査

- 4月11日 ○第7回緊急会計監査・第4回常務委員会(マスコミ対応について)
- 通信88-1 送付
- 4月12日 ○会計問題について記者会見(道庁記者クラブにて、中野・瀬川・平井)
- 4月14日 ○第8回緊急会計監査・第5回常務委員会(4・17緊急代表者会議について)
- 4月16日 ○緊急代表者会議資料作成
- 4月17日 ○緊急代表者会議(札幌・北海道クリスチャンセンターにて)
- 4月20日 ○第1回再建委員会
- 4月24～25日 ○知床立木買取運動参加者へ、返金作業とお詫びご報告の手紙を発送
- 4月26日 ○会報編集会議
- 4月27日 ○通信88-2 送付
- 5月8日 ○室蘭岳スキー場問題シンポジウム(室蘭市障害者福祉総合センターにて、寺島・中野・紺谷・前田)
- 5月11日 ○第2回再建委員会
- 5月14日 ○通信88-3 送付

## 編集後記

四月十七日の緊急代表者会議において知床立木買い取り運動の中止が正式に決定し、四月いっぱい、運動参加者に対してのおおびごと報告の手紙の送付・運動参加金の返金作業に追われました。最終的に(五月十六日現在)立木買い取り運動の返金希望者に対する返金総額は、二、一二八、三〇〇円(百二十四人)となりました。この中には、参加当初は運動が中止となった場合募金を希望したが、この様な問題が行った以上、返金してくださいという方三名も含まれています。参加者お一人に対して、実費(パンフ・バッヂ作成費、通信費等)相当分二千円は、返金額の中から差し引かさせて頂いていただきました。返金方法は、大口の方お一人(五〇〇円)を除いてすべて現金書留で送金し、四月末にはほぼ完了いたしました。

その後、立木参加者の中から「連合のために使用してください」「北海道の自然保護のために改めてお使いください」と、わざわざ送り返して下さった方や新たに送金して下さった方が大勢いました。また、賛助会員として改めて参加します、という人も数多く出て来ております。中には「やめられた田中さんに退職金として渡してください」と、十一万円も送金して下さった女性の方もいまし

た。これに前後して、お怒りやお叱り、はげましのお手紙、お電話も全国各地から寄せられています。(声の欄参照)これから一刻も早く連合を再建していきたいと願うわれわれ再建委員や事務局員にとって、なにより励みとなっております。本当にありがとうございます。そして今後ともご叱正、ご協力をよろしくお願いいたします。

(事務局・井山浩一)

◎本号は気分一新し、レイアウトなど井山さんの若いセンスが生かされ、親しみやすい会報になったと思います。いかがでしょうか。内容も切り抜きなど新しい企画も加え、情報の幅も広がっております。

御多忙中原稿を送って下さった方々、また協力していただいた印刷所の方に心から御礼申し上げます。

(平井百合子)

一九八八年五月二十八日  
 発行者 北海道自然保護連合  
 代表発行 中野 徹三  
 編集者 紺谷 友昭  
 事務所 札幌市東区北二三条東一丁目  
 堀江ビル2F

電話(011)七四二一三一六一代  
 振替口座 小樽一四〇七一  
 印刷 北海道機関紙印刷所